

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズパーク福岡東校		
○保護者評価実施期間	令和8年1月14日		～ 令和8年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和8年1月14日		～ 令和8年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動感覚や社会性を豊かに育むため、理学療法士による専門性の高いレクリエーションを取り入れている。週に1回、プールや公園、体育館での活動日を設け、子どもたちが思い切り体を動かしながら楽しく感覚統合を促せるカリキュラムを設定している。また、近隣の施設や公園などへも頻りに出かけ、地域の子どもたちとの自然な交流を通して、コミュニケーション能力や社会性を育む機会を大切にしている。	理学療法士が考案した専門的な運動プログラムをスタッフ全員で共有し、施設全体で子どもたちの発達をサポートしています。単に運動能力を伸ばすだけでなく、集団での遊びの中で順番を待つことや、頑張るお友達を応援し合う経験を通して、思いやりの心と豊かな社会性を育むことを大切にしている。	昨年度より理学療法士による専門的支援を導入し、児童個々の身体的特性の把握とアプローチの質が大きく向上しています。今後はこの基盤を活かし、運動に困難さや苦手意識を抱える児童に対しても、個別の発達段階やニーズに合わせたスモールステップでの運動療法を展開し、無理なく意欲的に参加できるプログラムの構築に取り組む。
2	視覚・触覚の感覚を養うためにパソコン教室をカリキュラムとして取り入れている。	・マウス操作が難しい利用者にはiPadを利用して代替りの成果物を作成するなど配慮している。 ・パソコン操作に慣れていない利用者が参加出来るように個別利用者のレベルに合わせて支援員と一緒に入力するなどのサポートをしている。	操作自体なれてきている利用者が増えてきているが、成果物を発表する機会を設けていないので成果物に対して発表するなどアウトプット（発表）する機会を設ける。
3	季節に応じたイベントを積極的にカリキュラムとして取り入れ、工作やお出かけのときに、四季折々の自然や素材に直接接触することで、子どもたちの豊かな感性と五感を育てている。	自然に触れることを大切にし、春はお花見、夏は川遊び、秋はみかん狩りなどへ出かけている。また、室内での工作でも、桜の絵や母の日のプレゼント、ハロウィンなど、季節を感じられる創作活動をカリキュラムに取り入れている。	工作活動においては、学年や発達段階が上がるにつれて子どもたちが物足りなさを感じることがないよう、常に新しいプログラムを考案する。一人ひとりの年齢やスキルに応じた『少し頑張ればできる』適度な難易度の創作を提供し、達成感と意欲を引き出す。また、お出かけ活動に関しても訪問先のバリエーションをさらに拡充し、多様な場所での経験を通して新しい発見や価値観に触れる機会を作り、子どもたちの視野と豊かな心を養う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者の家族向けの懇談会や兄弟も含めたイベントが少ない。	営業時間と父兄様のお仕事や学校の時間が重なっており開催することが困難である。	長期休みのイベントやハロウィンパーティー、クリスマス会などに父兄様も参加できるようにカリキュラムを考える。
2	他事業所の利用者や地域の子どもとの交流が少ない。	公園活動の時には地域の子どもたちも巻き込んだ遊びをしているが、その様子をInstagramやLINEなどのSNSでの発信が少ないことが要因として思われる。	さらにSNSなどで地域の子どもたちと接しているところを掲載して、送迎時にも地域の子どもたちと交流した際は伝えるようにする。
3	施設が狭くて学習するスペースと、自由時間の活動スペースとの隔たりがない。	下校時刻が利用者によって異なり、施設としてのルールで学習をしてから自由時間となっており、利用者の学習時間と自由活動時間が重なることが要因だと思われる。	利用者が集中して学習できるように、学習を終えている利用者への声掛けや、イヤーマフの活用など利用者の学習環境を確保する必要がある。